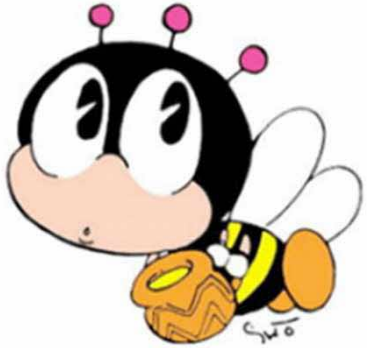
資料３－１



生涯学習のマスコット「マナビィ」

第10期中央教育審議会
生涯学習分科会における議論の整理について

令和３年1月13日

文部科学省総合教育政策局
生涯学習推進課 課長補佐
齊藤　加奈子

文部科学省

第10期中央教育審議会生涯学習分科会について

第10期中央教育審議会 機構図

- 中央教育審議会
  - 教育振興基本計画部会
  - 教育制度分科会
  - **生涯学習分科会**
  - 初等中等教育分科会
    - 教育課程部会
    - 教員養成部会
    - 新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会
  - 大学分科会
    - 質保証システム部会
    - 大学院部会
    - …

委員構成

（分科会長）
明石 要一　千葉敬愛短期大学学長、千葉大学名誉教授

（副分科会長）
菊川 律子　前放送大学福岡学習センター所長

清原 慶子　杏林大学客員教授、ルーテル学院大学学事顧問・客員教授、前東京都三鷹市長

学識経験者、NPO・民間事業者、
地方公共団体首長・教育長経験者、
社会教育施設関係者、PTA関係者、
専修学校・各種学校関係者等

委員８名、臨時委員12名（計20名）

審議の経過

平成31年４月 ～　令和元年12月	審議事項について有識者ヒアリング等 （子供・若者の学び、社会的包摂に向けた学び、民間団体や人材の活躍・連携、リカレント教育等）
令和２年２月	「議論の整理」骨子案検討
６月～８月	新型コロナウイルス感染症対策に係る対応も踏まえ、「議論の整理」案の検討
９月	「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」とりまとめ
10月	「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理をふまえた事例・施策集」公表

第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育
～命を守り、誰一人として取り残さない社会の実現へ～

1．生涯学習・社会教育をめぐる現状・課題

社会的包摂の実現

・地域の多様な人たちが相互に理解し合い共生できる環境をつくっていく上で、社会教育は極めて重要な役割を果たすことが期待されている。
・様々な理由で困難を抱える人たちに対し、知識や技能を習得する機会を充実するなど、社会教育における学習機会の拡充が重要。

人生100年時代と生涯学習・社会教育

・マルチステージの人生においては、必要な時に必要な学びを通じ成長し、心身の健康を保持しながら活動できることが求められる。また、職場や職種の転換を経験する機会も増える可能性が高まるため、必要な資質・能力等を更新できる学びの場が重要。

Society 5.0に向けたこれからの生涯学習・社会教育

・ICT機器を利用できる者とできない者の格差（デジタル・ディバイド）の解消は、住民の安全や命を守ることにもつながる。
・時間的・空間的な制約を超えた学びなど、新しい技術を活用した様々な学びの在り方が可能になる。
⇒新しい技術を活用した学びの利点を最大限生かし、取組を更に充実・発展していくことが求められる。

地域活性化の推進

・地域における豊かな学びを推進するためには、多様な主体が連携・協働し共に学び合うことが求められる。

子供・若者の地域・社会への主体的な参画と多世代交流の推進

・子供・若者が地域の課題解決に主体的に関わることは、主権者意識の涵養にも資するものであり、よりよい社会を創っていく資質・能力を育む上で重要。社会教育・学校教育という区分を超えて充実を図るべき。

第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育
～命を守り、誰一人として取り残さない社会の実現へ～

2．新しい時代の生涯学習・社会教育の広がりと充実に向けて

新しい時代の学びの在り方

・いわゆる講義形式で知識をインプットする「学び」だけでなく、疑問を持ち、課題を見つけ、考えを発信し、他者と共に考え、新たな考えを創造するといったことも「学び」の重要な要素となる。

・様々な背景を有する多様な世代の人たちがつながり、共に学び合うことにより、新たなアイデアが生まれ課題解決につながることや、他者を理解し、受け入れ、共生する社会の実現につながることが期待される。

・新しい技術を活用した「オンラインによる学び」と「対面による学び」の組合せで学びが更に豊かなものになる。

「命を守る」生涯学習・社会教育

・新型コロナウイルス感染症や自然災害などの課題に対し、必要な知識を得たり課題解決に向けて共に学び合ったりする機会の充実は、あらゆる人々の「命を守る」ことに直結する。

・「誰一人として取り残さない」包摂的な社会の実現のため、様々な人たちに必要な学びの機会を設けることが重要。

⇒学びを通じて人々の生命や生活を守る「命を守る」生涯学習・社会教育という視点が今後ますます重要。

第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育
～命を守り、誰一人として取り残さない社会の実現へ～

推進のための方策

①学びの活動をコーディネートする人材の育成・活用

・社会教育士の取組事例や成果を具体的に紹介し、多様な場での活躍を促進していくこと。
・多様な人材が社会教育主事講習を受講できるよう、オンライン等による受講機会の確保などの条件整備が求められる。

②新しい技術を活用した「つながり」の拡大

・MOOCや放送大学などの積極的な活用をこれまで以上に推進していくこと。
・社会教育施設におけるICT環境の整備推進のため、既存財源の活用や企業との協同等の創意工夫を凝らした取組を促進すること。
・デジタル・ディバイド解消のため、社会教育施設等でのICTリテラシーを身に付ける学習機会を充実すること。

③学びと活動の循環・拡大

・生涯学習の分野におけるICT等を活用した学習履歴の可視化について推進方策を検討すること。
・より多くの人たちが自主的に学びの活動に参画するような工夫として、ボランティア活動をポイント化し、それを地域での購買や学校等への寄附に利用できるようにする取組といった特色のある取組を推進していくこと。

④個人の成長と社会の発展につながるリカレント教育の推進

・大学や専門学校等と産業界が連携した実践的な教育プログラムを開発・拡充すること。
・大学や専門学校等における遠隔授業のリカレント教育への活用を積極的に推進すること。

⑤各地の優れた取組の支援と全国展開

・先進的な事例等のわかりやすい形での情報提供や、関係者がノウハウ等を共有する機会を充実すること。

「議論の整理」３つのキーワード

1　「命を守る」生涯学習・社会教育

☞新型コロナウイルス感染症や自然災害などの課題に対し、必要な知識を得たり課題解決に向けて共に学び合ったりする機会の充実は、あらゆる人々の「命を守る」ことに直結。

☞「誰一人として取り残さない」包摂的な社会の実現のため、様々な人たちに必要な学びの機会を設けることが重要。

☞学びを通じて人々の生命や生活を守る「命を守る」生涯学習・社会教育という視点が今後ますます重要。

2　ＩＣＴ活用、デジタル・ディバイド解消

☞ 新しい技術を活用した「オンラインによる学び」と「対面による学び」の組合せにより、多様な交流や人と人とのつながりを広げる可能性があるなど、学びが更に豊かなものに。

☞インターネットが生活のオプションではなく生きていくための情報を得る命綱にもなり得る時代において、 ICT機器を利用できる者とできない者の格差（デジタル・ディバイド）の解消は、住民の安全や命を守ることにもつながる。

3　子供・若者の地域・社会への主体的な参画

☞子供・若者が地域の課題解決に主体的に関わることは、主権者意識の涵養にも資するものであり、よりよい社会を創っていく資質・能力を育む上で重要。
社会教育・学校教育という区分を超えて充実を図るべき。

「議論の整理」を踏まえた地域における学びの姿（イメージ）

地域課題・ニーズに応じた多様な学びの活動を実施

学びの活動の例

「命を守る」生涯学習・社会教育

自然災害等から「命を守る」ことにつながる学び

防災等に必要な知識を得て、課題解決に向け共に学びあう。

社会的包摂に向けた学び

様々な理由で困難を抱える人たちへの学びの機会を福祉部局や民間団体等と連携し確保する。

デジタル・ディバイド解消に向けた学び

ICTに関するリテラシーを身に付ける機会ことができる学習機会を企業等とも連携し確保する。

子供・若者の地域・社会参画

子供・若者が地域課題解決に主体的に取り組む機会を設ける。

地域課題解決に向けた「豊かな学びの姿」を実現

様々な背景を有する多様な世代の人々の参画

共に学びあうことで、新たなアイデアが生まれ課題解決へ
他者を理解し受け入れ共生する社会の実現へ

多様な主体の連携・協働

産業界
大学
専門学校
小中高校
首長部局
PTA
ＮＰＯ
etc…

参画を促進

連携・協働

社会教育主事・社会教育士

学びの活動をコーディネート

効果的な学びを企画・実施

「ＩＣＴ」と「対面」の効果的な組み合わせ

ＩＣＴの活用により、多様な交流や人と人とのつながりを広げ、更なる豊かな学びへ

関連事例①（沖縄県那覇市若狭公民館）

➢ 若狭公民館のある地区は、自治会未加入率が８割を超えるとともに、青年層が少なく、地域の担い手に不安がある状況。
生活保護受給率が全国平均より高いとともに、ひとり親家庭も多く、外国人労働者･留学生も急増。

➢ そうした中、「魅力ある楽しい活動」を軸に新たなコミュニティをつくり地域課題解決に取り組む。

防災キャンプ
（防災×キャンプ）

行政機関はもちろん、防災の専門家やキャンパー、ペットコミュニティなどと連携、協働実施。

在住ネパール人との交流
（多文化共生×音楽･ダンス･食）

➢ 志のある人や組織からの相談をもとに様々な事業を展開。

無料英会話教室
「ＥＬＩＰＯ」

若狭小学校区まちづくり協議会と連携して児童生徒を対象とした学習支援を実施。

大学生が教える勉強会
「土曜朝塾」

NPO法人ELIPO、しんぐるまざあず･ふぉーらむと連携し、ひとり親家庭等の児童生徒を対象とした無料の英会話教室を開催。

関連事例②（福井県高浜町和田公民館）

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い休館を余儀なくされたが、「休館期間中でも公民館としてできることはないか」を公民館職員間で考える中で、オンラインでの講座を開催。
- 学校臨時休業期間中の子供の運動不足解消を目的としたキッズヨガ、手話教室等の講座をオンライン会議アプリ「Zoom」を活用して地域住民へ配信。
- 公民館にはICTに詳しい職員はいなかったが、地域にいるICTに詳しい方や町職員等の協力を得ながら、配信を実施。
  - ･教育委員会事務局からウェブカメラを借りて、公民館のパソコンに取り付け
  - ･高浜町総務課から20m程のLANケーブルを借用。Wi-Fiのつながらない公民館2階でも配信できるよう工夫
- これまでの対面型の講座には参加することができなかった高齢者施設の方々も参加できるようになるなど、オンライン講座の実施が多くの住民が公民館に関わるきっかけにもなったことから、開館後も継続してオンライン講座を実施。

関連事例③（島根県益田市）

➢ 島根県益田市では「ひとが育つまち益田」の実現を目指し、子供たちに大人たちの仕事だけでない多様な足場・顔（ライフキャリア）を知らせるとともに、ふるさとの人とつながり自分の手でまちをつくることを体験させる「ライフキャリア教育」を推進。

・ 認定NPO法人カタリバと連携し、地域の大人と子供が一対一で語り合い、対話を通して「これからどんな大人になりたいか」という生き方を考える授業を行う「益田版カタリバ」、
・ 公民館を拠点とした中学生地域活動や高校生による地域活動

➢ これらのプログラムを社会教育サイドが企画・運営。
学校教育の中で教育課程に位置づけたり、学校教育と社会教育の往還を進めたりするなど、地域ぐるみの教育を進めるための基盤作りも同時に実施。

➢ これらの取組の結果、
「益田市に魅力的な大人が多い」と回答した中高生が４割以上増加（４３％→８６％）
地元での高卒就職希望者数が約２割増加（４０％→５７％）
成人式アンケートで、「ライフキャリア教育」一期生の約7割以上が将来益田市で暮らしたいと回答

➢ これらの取組を更に進めるため、令和2年度より、ひとづくり・地域づくりを推進する中間支援団体「一般社団法人　豊かな暮らしラボラトリー（ユタラボ）」を設立。
ユタラボの設立により、高校生世代の社会教育サイドでの活動の更なる進展を目指す。